

ROTARY CLUB OF
NARA — WEST
 DISTRICT WEEKLY BULLETIN
 2650 No. 2346 2018. 12. 6

創立 1969年(昭和44年)12月13日
 例会日 毎週木曜日18:00より
 事務所 〒630-8001 奈良市法華寺町254番地
 例会場 奈良ロイヤルホテル内
 TEL 0742-34-1131 FAX 0742-30-2000

2018~2019年度
 国際ロータリーのテーマ

2018~2019年度
 地区のスローガン



ロータリーを学び、実践し、発信しよう；
 Enjoy Rotary

国際ロータリー会長
 バリー・ラシン

RI第2650地区ガバナー
 中川 基成

会長	追山 重法	副会長	小原 壮一		
幹事	猪上 正孝	会計	奥田 裕一郎	会場監督	東山光秀
理事	笹本麻琴	理事	金田 宗寛	理事	植野洋志
理事	相澤万裕子	役員	有馬 康明	会報委員長	松山悦啓



12月
 秘仏 本尊 薬師三尊像

今月は 疾病予防と治療 月間です

第21回(2346回)例会プログラム平成30年12月6日(木)

1. 開会宣言 点鐘
2. ソング「君が代」「奉仕の理想」
3. 来訪者紹介
4. 出席報告
5. 会長の時間
6. ニコニコ報告
7. 幹事報告・委員会報告
8. 家庭集会報告
9. 卓話:木村 和弘会員
「自己紹介」
10. 閉会宣言 点鐘

第20回 (2345回) 例会報告 2018. 11. 29

ソング

「週に一度」

出席報告

	会員数	出席計算 免除会員数	出席会員数	欠席者数	出席率
通算 2345 回	47	10/11	29/36	10	84.8%
通算2343回修正	47	7/11	36/36	0	100.0%

会長の時間 (追山会長)

皆様今晚は、2週間ぶりの例会です。なんか久しぶりの例会に思えます。私だけでしょうか？

去る11月18日に日本で初めての奈良メディカルラリーが高の原イオンで開催されました。我がクラブから猪上幹事・川野会員が参加して頂き有難うございました。この訓練は医療資格のない人が有事のおり被災者をどのように助けるかを競う競技です。医療機関、各自治体、警察、自衛隊、消防団が協力して行うものです。全員のブラインド訓練で何が起るか選手には知らされていません。その場その場で判断し対処することが目的です。川野会員には赤タグのトリアージで最も重い重症患者になっていただきました。名演技でした。表彰式では、奈良西ロータリー賞を設けて頂き、5位の奈良日赤チームに盾を送りました。

先ほどは第2回クラブアッサンブリに出席頂き有難うございました。各委員会の中間発表頂きました。引き続き宜しくお願い致します。

さて、先週末24日に京都商工会議所にて指導者育成セミナーに出席してきました。今回は青少年奉仕について、青少年保護・ローターアクト・インターアクト・青少年交換・RYLA・ロータリーフェローズ2650などについて3時間みっちり研修してきました。後日時間があれば地区委員の下村会員に報告して頂きます。来週は年次総会です。指名委員の皆様宜しくお願い致します。以上で会長の時間といたします。有難うございました。

幹事報告 (猪上幹事)

- ①例会変更情報は、表の座席表と共に掲示しております。また、ホームページの会員ページにも掲載しておりますのでご覧下さい。
- ②次週12/6は、17時から奈良ロイヤルホテルにて第8回の理事会を開催致します、理事役員の皆様よろしくお願い致します。
- ③次週は18時から年次総会を開催致しますのでよろしくお願い致します。
- ④次週に第1回家族集会報告をお願い致します。各リーダーの皆様、1分から2分での発表をお願い致します。
- ⑤本日、例会終了後、指名委員会を開催致しますので、指名委員の皆様は例会場にお残り下さい。よろしくお願い致します。

ニコニコ報告

追山重法会長

11/18市民メディカルラリー参加ありがとうございました。本日のアッセンブリごくろう様。植野会員卓話たのしみです。宜しくお願いします。

林秀彦会員

本日、植野会員の卓話「ロヒンギヤ」について聞きたかったのですが、認知症対応の医科歯科講習に出席しなければならない為、残念です。次週週報を楽しみにしています。

美並義博会員

奥方の誕生祝に美しいシクラメンのお花有難うございました。

吉村信男会員

家内に誕生祝、美しい花をありがとうございました。そして私には出席表彰を あっというまの25年、皆様のご厚情に感謝！！

杉村仁会員

アメシオンロータリアン杉村です。会長に「飛行機落ちへんかったんや」とおほめいただきました。

谷垣嘉輝会員

植野会員、本日卓話たのしみです。

津山初雄会員

今日も楽しいロータリー例会です。

ごちそうを期待して ニコニコ

大濱正徳会員

冬が駆け足で近づいて来ました。明後日はもう12月です。早いものですね。皆さん健康には十分気を付けて頑張ってください。私は病人というか怪我人です。指名委員会開催を通知して委員の方々にお集まりいただいた手間い出て来ました。次々年度すばらしい会長を指名させていただけるものと思います。植野さんロヒンギヤの話楽しみにしています。

猪上正孝会員、小原壮一会員、奥田裕一郎会員、竹田知弘会員、金田宗寛会員、東山光秀会員、松山悦啓会員、寺田信弘会員、木村知弘会員

本日の第2回クラブアッセンブリーおつかれ様でした。植野(教夫)会員、卓話楽しみにしております。

表彰



植野 教夫会員

- ・米山功労賞
- ・マルチプル・ポール・ハリス・フェロー第3回目

川野隆祐会員

先週 日曜日 市民メディカルラリー(in高の原イオン)に出席しました。なんと大ケガをした市民役を大勢の前での演技、とても恥しかったです。大腿骨骨折に内蔵破裂の役でした！声もだせずのアピール難しいです。

植野教夫会員

本日の卓話ががんばります。よろしくお願いいたします。

小松玲子会員

長い間お休みをしてご迷惑をおかけしました。ニコニコ目標300万に向けてこれからもよろしくお願い致します。

中井肇一会員

寒くなってきました。体調管理に皆さん気をつけて下さい。

加藤又拡会員

クラブアッセンブリー初参加です。勉強になります。

出席表彰



■ 11月出席表彰 ■

吉村信男会員		(在会25年)
有馬康明会員	皆出席1年	(在会14年)
大濱正徳会員		(在会13年)
道端孝治会員	皆出席1年	(在会3年)

卓話

「ロヒンギャ問題とは？」－ミャンマーで聞いたロヒンギャ問題－

植野 教夫会員

今、世界中の世論が、「ミャンマー・アウンサンスーチ」が「ロヒンギャを迫害している」と大騒ぎです。そもそも「ロヒンギャ」とは何なのか？

私が、ミャンマーで見聞きした「ミャンマー問題の本質」をお話させていただきます。

「ロヒンギャ」とは、ミャンマー西部のラカイン州に住むイスラム教徒の住民の総称です。ミャンマー国内に約100万人いるとの事です。ロヒンギャ問題の一番の当事国であるミャンマー政府は、ロヒンギャを「不法移民のベンガル人(バングラデシュ人)」だと強く主張します。ミャンマーの街々では、ロヒンギャ問題は存在しません。人々は「ロヒンギャ問題はミャンマーの問題ではなくバングラデシュの難民問題」だと言い切ります。

一方、バングラディッシュ政府は、ロヒンギャは自国民ではなく「ミャンマーに属する民族集団」という立場をとっており、「ロヒンギャはミャンマーの問題。バングラディッシュとは無関係だ」と言い切ります。その結果、現在まで、ロヒンギャはミャンマー・バングラデシュどちらの国籍も持つことができないでいます。

ミャンマーの人々の「反ロヒンギャ感情」の根源は、主に次の3つだと思われます。

ロヒンギャは上手にビルマ語を話せないという言語的差別と、ロヒンギャの彫りの深い顔や色の黒い肌など見た目への差別で、ベンガル人だとの主張に基づく人種的差別、さらにミャンマーの国民のほとんどは敬虔な仏教徒で、保守的イスラム教徒(ムスリム)であるロヒンギャに対する嫌悪感は強く、宗教的差別感情は特に強いものと思われます。この不快感をあらわにした仏教過激派組織が、2012年にはロヒンギャと大規模な衝突を起こしています。この衝突により、多くのロヒンギャが殺害され10万人を超えるロヒンギャが住処を失います。ミャンマー政府はロヒンギャのための避難民キャンプを作りますが、家や村を焼かれた多くのロヒンギャが、バングラデシュへの避難民となっています。が、果たして「避難」なのか母国ベンガルへの「帰還」なのか難しい判断となります。では、ミャンマーとはどのような国なのか整理してみます。

ミャンマー(1989年迄ビルマ)は、インド・バングラデシュ・中国・ラオス・タイと国境を接する東南アジアの国で、首都はネピドーです。国内最大都市ヤンゴン(旧ラングーン)には、活気あふれるマーケットや、数多くの公園や湖があり、仏舎利が収められた黄金色に輝く6世紀の仏塔シュエダゴンパゴダがそびえています。ミャンマーは8の部族135に及ぶ民族が存在する多民族国家です。

さて、ビルマ人の対英独立運動は第一次世界大戦中に始まります。1930年頃から反植民地運動がビルマ全域に広がりました。1942年アウンサン将軍がビルマ独立義勇軍を率い日本軍と共に戦いイギリス軍を駆逐します。1943年に日本の後押しでビルマ国が建国されたのですが、1944年のインパール作戦の失敗など日本の敗色が濃厚とみるや、アウンサン将軍が指揮するビルマ国民軍は1945年3月日本及びその指導下にあるビルマ国政府に対してクーデターを起こします。その結果、連合軍がビルマを奪回し日本軍に勝利しますが、イギリスはビルマ

の独立を許さずビルマは再びイギリス領となります。1947年7月にアウンサン将軍が暗殺された後、1948年にイギリス連邦を離脱してビルマ連邦として独立します。その後、軍事政権による長い統治・弾圧が続きます。

アウン・サン・スー・チーが率いる国民民主連盟による民主化の動きは、スー・チーの長期軟禁と解放の繰り返しにより遅々として進みません。が、アウン・サン・スー・チーは、2015年11月民政復帰後では初めての総選挙で圧勝します。しかし、家族に外国人(イギリス人の夫と子供達)がいるため、ミャンマー連邦共和国憲法の規定と国軍の反対で大統領になれません。そんな中、国家顧問・外務大臣・大統領府大臣を兼任して政権の実権を握り、「事実上のスー・チー政権」と評されるようになります。

では、「ロヒンギャ問題」に関する私の独断と偏見による解説を聞いてください。まず、ロヒンギャは「ベンガル人なのかビルマ民族なのか」です。私は、ロヒンギャはベンガル人(バングラデシュ人)だと断言します。ほとんどビルマ語を話せない保守的イスラム教徒(ムスリム)であるロヒンギャは、彫り深い顔で黒い肌のベンガル人です。世界一迫害される民族「ロヒンギャ」は、「民族」ではなく、ビルマに移住したベンガル人である事は明らかです。では何故、ミャンマーに住み着いたのでしょうか？

イギリスとビルマ、イギリスと日本の戦争の歴史がすべてを明らかにしています。第一次第二次英緬戦争を経て、1885年イギリスはビルマの完全支配を目指して、三度目の侵攻(第三次英緬戦争)を開始、翌1886年ビルマ王がイギリスに降伏しビルマ王朝は滅亡し、ビルマはイギリス領インドに併合されました。イギリスは、英領インドのベンガル側より大勢のムスリムをビルマに移住させます。そして、植民地化したビルマの農民(仏教徒)から農地を没収しベンガル人(ムスリム)に与えました。こうして、大勢のムスリムが定住移民となっていく、このような急激な移民の流入により、北部ラカインの仏教徒とムスリムとの軋轢を強めていきます。このムスリム達の存在が、ロヒンギャの原点だと考えられます。要するに、イギリスがベンガルからムスリムをビルマに連れて行き、ビルマの仏教徒の土地を取り上げ、ムスリムに与えたのが「ロヒンギャ問題」の“悪の原点”です。

では「ロヒンギャ問題はイギリスの責任」と言うと、どうやら日本の責任もありそうです。

第二次世界大戦中、日本軍が英軍を放逐しビルマを占領すると、日本軍はラカイン人仏教徒を武装化させます。一方、英軍もベンガルに避難したムスリムを武装化しラカインに侵入させ、日本軍との戦闘に利用します。

特に、ビルマの戦いにおける1942年の戦闘では、英軍側のムスリムによって2万人以上の(ビルマの仏教徒)ラカイン人が殺され、今日に至るまでミャンマー国内における反ロヒンギャの強い動機となっています。また、当時の東パキスタン(現バングラデシュ)と国境を接する北西部ラカイン州では、1950年代初頭まで、東パキスタンでの食糧不足に苦しんだベンガル人(ムスリム)が多数流入し、仏教徒との対立をさらに強めます。

この混乱期において、ラカイン北西部に住むムスリムの「総称」として名乗りを挙げたのが「ロヒンギャ」だったと言えます。

現在の「ロヒンギャ問題」「宗教対立の深刻化」が顕著化したのは、2012年5月ヤカイン州の町でヤカイン族の女性がロヒンギャの男三人から暴行を受け、殺害された事からです。国営紙で事件が報道されると、ヤカイン族とロヒンギャの間で大きな衝突が起きました。政府発表では、192人が死亡、265人が負傷、8614世帯が家を失ったとの事です。

こうして、仏教徒のロヒンギャに対する偏見はより根深いものとなります。

結論としての私見ですが、ミャンマーでの見聞により感じとった事を前提に申し上げると、今の世界中の論調、のみならずその行動は、疑問だらけです。

現在、ロヒンギャ問題は、「ミャンマーが悪い」、「アウン・サン・スー・チーが悪い」と、国連を中心に国際世論が盛り上がっています。

「平和・人権」を唱える多くの組織・団体が、アウン・サン・スー・チーを責めて「ノーベル平和賞を返せ」とまで言い出しています。カナダ下院は、全会一致でスー・チー氏の名誉市民号を剥奪し、アメリカの有力紙は、「人権の女神スー・チーは、悪魔になり果てたのか」と書きたてました。さらに、国際人権団体アムネスティ・インターナショナルは、アウン・サン・スー・チーに授与した同団体最高の荣誉「良心の大使賞」を取り消す意向を明らかにしました。



卓話(続き)

遠い過去の歴史を遡ることなく、「ロヒンギャ」はミャンマーに移住したベンガル人であることは明らかです。移住したのか、あるいはイギリスによって移住させられたのかは兎も角、「ロヒンギャはミャンマーからの難民だ」とミャンマーやアウン・サン・スー・チーを責める国際世論には大いなる疑問が残ります。イスラエル・パレスチナ紛争問題に、置き換えて「ロヒンギャ問題」を考えてみてはどうでしょうか？ 2000年以上前に国を追われたユダヤ人に、国連とアメリカは「イスラエル建国」の名のもと、国土を与えました。このイスラエルの国土は、いつから誰のものだったのでしょうか？ アウン・サン・スー・チーは当初、ロヒンギャに対する暴力行為の即時停止などを訴えましたが、多数派の仏教徒から逆に批判を浴びると、その後は口をつぐみ、新政権発足後もこの問題への深入りを避けています。最後に、私なりのロヒンギャ問題の先読み、予想、独りよがりの珍説です。2年後の総選挙で、アウン・サン・スー・チーは敗北します。ミャンマーの民主化は頓挫し、再び軍事政権へと引き戻されます。そして、ロヒンギャはミャンマーに戻れません。その時、ラカイン地方に眠る天然資源を狙って、中国が軍事政権と手を組むのでは.....。

第2回クラブアッセンブリー



第22回（通算2347回）例会予告
例会日 平成30年12月13日（木）

12:30～21:30
第2回家族クリスマス親睦移動例会

「なばなの里ベゴニアガーデン&イルミネーション鑑賞」
と
日本料理「翡翠かわせみ」

